



第9回



©2008 Walker George Films (Young at Heart) Limited.

シネマの中の高齢者

平均80歳ロック・コーラスグループの心は熱い!…『ヤング@ハート』

来日公演も果たして、日本でも話題になった平均年齢80歳のコーラス・グループ「ヤング@ハート」。その名もずばり「心の中は若い」というグループ名だ。30年前、アメリカのマサチューセッツ州の小さな町で、指揮を担当するボブ・シルマンが地元の公営住宅に住む高齢者を集めて、ロックを歌ってもらおうというコンセプトで結成した。そのポジティブなエネルギーが評判を呼び、いまでは世界中をツアーしてまわる人気グループである。

本作では、ヤング@ハートが年1回のコンサートを行う7週間前から、撮影クルーが密着する。リハーサルスタジオに椅子をならべ、指揮者のボブがメンバーに新曲を教えていくのだが、みんな物覚えはよくない。クラシックやオペラ好きの高齢者に、ソニック・ユースやジェイムス・ブラウンの曲を教えるのだから簡単ではないが、それが目的でもある。1人のメンバーいわく、「新しいものを学ぶことで脳を活性化できる」のだ。

コンサートで、92歳の女性がパンクバンドの名曲「ステイ・オア・ゴー」を「私は行くべき、

残るべき?」と歌う。もとは男女の別れの曲だが、彼女が歌うとまったく別の光景が目に見え始める。最初はそのズレを笑い、舞台上でデタラメに踊りまくるメンバーに腹を抱える聴衆も、次第にその世界に魅せられていく。刑務所のコンサートで受刑者たちが、グループの歌と演奏に涙するシーンも印象的だ。その感動はどこから来るのか?

実は、この映画の撮影中に、練習に打ち込んでいたメンバーが亡くなってしまった。それでも女性メンバーの1人は、「私が舞台上で倒れても、袖に運んで、みんなに歌い続けてほしいと思う」といい、グループはコンサートをを目指す。持病をおして練習に参加し、親しい人の死を冷静に受け止め、だからこそ音楽で今日の生を充実させる。当たり前だが、誰もが忘れがちな大事なものを示してくれるからこそ、グループも映画も輝いて見えるのだ。

金子 遊 (映像作家・批評家)

ヤング@ハート

監督：スティーヴン・ウォーカー

出演：ボブ・シルマン、アイリーン・ホール、フレッド・ニトル他、ヤング@ハートのメンバーたち
DVD 発売中：ポニーキャニオン、定価3,990円(税込)

